

## 四国四県町村長・議長大会の開催

9月29日（木）愛媛県松山市の松山全日空ホテルにおいて、「四国四県町村長・議長大会」を開催いたしました。

この大会は、四国の町村長・議長が一堂に会し、町村の抱える重要課題について決議するとともに、決議の実現のためお互いに連携を密にしながら行動し、多様で個性豊かな町村自治の振興と住民福祉の向上を期することを目的としています。

大会での決議内容は以下のとおり。

### ○決議事項

- ・地方創生を推進し、一億総活躍社会を実現すること
- ・南海トラフ地震対策等、防災・減災対策の充実強化を図ること
- ・四国地方の交通基盤等を整備促進すること
- ・農林水産業の振興対策及び農山漁村の活性化対策を強化すること

○参議院選挙の合区の見直しに関する特別決議（別紙）

○「四国八十八箇所霊場と遍路道」に関する共同アピール（別紙）

石川会長



## 参議院選挙の合区の見直しに関する特別決議（案）

第24回参議院議員通常選挙は、憲政史上初めて合区で行われたが、地方の自立・活性化を図るために必要な、地方の意見を国政に反映させる機会と権利を失わせる結果となった。

とくに、投票率が全国的に横ばいの中、合区とされた「徳島県及び高知県」選挙区では両県とも全国で最も低いレベルの投票率となり、人口減少などから危機に瀕した地方の民意を国政に反映させるうえで、深刻な課題を残したと言わざるを得ない。

今回の選挙において、両県民の投票意欲を喪失させた主因は、「一票の格差」の是正のみを目指し、選挙区として都道府県単位で果たしてきた役割を無視した小手先の<sup>びほうさく</sup>弥縫策として実施された「合区」の導入にあり、今後、「合区」の継続と拡大は、都市住民の意向が尊重される一方、地方住民の参政意欲を失わせることにつながりかねず、ひいては我が国の民主主義の根幹を揺るがす事態に陥るものである。

今一度、国会においては、我が国の民主主義における選挙区としての都道府県が果たしてきた役割を尊重した参議院選挙制度改革の議論を興し、参議院の選挙制度を地方の意見も国政に反映される仕組みとすべきである。

については、広範な国民世論を背景として、合区による選挙制度を見直し、法律のみならず憲法の改正も視野に入れて、都道府県単位による代表が国政に参加する仕組みを構築されるよう強く要望する。

以上決議する。

平成28年9月29日

四国四県町村長・議長大会

## 「四国八十八箇所霊場と遍路道」に関する 共同アピール（案）

「四国八十八箇所霊場と遍路道」は、徳島県・高知県・愛媛県・香川県の四県をつなぐ、空海ゆかりの八十八箇所霊場をループ状に巡る全長1,400kmの壮大な寺院巡拝である。

この巡拝は、古くから一般庶民に定着し、それを地域社会が「お接待」と呼ばれるおもてなしの心で支えている。

遍路の基となる「思想・信仰」、実践する「場」、さらにそれを支える「地域」の3者が一体となった「遍路文化」は、空海が四国霊場を開創したとされる西暦815年から、1200年の長きにわたり脈々と受け継がれてきた。

こうした「遍路文化」は、日本国内、さらには世界的に見ても、普遍的価値のあるもので、人類全体の遺産として次代に引き継いでいくべきであり、まさに、世界文化遺産にふさわしいものとする。

この「四国八十八箇所霊場と遍路道」の特性である、八十八箇所霊場とそれを繋ぐ遍路道の全てが揃って個性ある価値を發揮することを踏まえ、国に対して長大なエリアに及ぶ生きた文化遺産として、保存・継承できるよう強く要望する。

また、平成27年には、地域活性化を図ることを目的とした「日本遺産」に「四国遍路」が認定され、さらに先月8日には、世界文化遺産登録を目指す四国四県や関係58市町村らが、登録の前提となる国内暫定リスト入りに向け、文化庁に対して構成資産の保護措置や普遍的価値の証明などを盛り込んだ提案書を提出したところである。

我々もまた、今後、「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録に向け、さらに関係者と緊密に連携しながら一層の機運の醸成に積極的に取り組むとともに、すべての人を温かく受け入れてきた本来の四国遍路の素晴らしさを幅広く周知するなど、一体となって取り組むことを強くアピールする。

平成28年9月29日

四国四県町村長・議長大会